

家庭

|| ニカラグアで
猛烈な臭気と煙の中、拾ったマスクをつけて働く



「悪いことをしたら、お金もうけは簡単かもしれない。でも、私はそんなことをしたくない。だって、悪いことは悪いことだもの」

ひしゃげたペットボトルを拾い集めていた10歳ぐらいの女の子は、私の目を真つすぐ見て言った。

前日、ニカラグアの首都マナグアの中央市場で目撃したことを、私は彼女に話していた。

「貧しい国」と言われるが、市場には生活用品があふれていた。突然、上半身裸の若い男が路地奥から飛び出してきた。すぐ後ろを、白髪頭のおやじが竹の棒を持って追っかける。

男は何かにつまずいて転び、それ

地球
を
たがやす

宇田 有三

を周りの屋台や商店の店主が取り囲んだ。白髪頭のおやじが、竹の棒で男の顔や頭、背中を打ちのめし始めた。

顔面血だらけになった

男は、手を合わせ、「やめてくれ」と懇願し続ける。

「何があったんだ」。横にいた男に尋ねた。「かっぱらいだよ」

そんな市場を、首から2台のカメラをぶら下げて歩き回っている私は、無防備すぎるかもしれない。すれ違いざまにカメラバッグと帽子をひったくられそうになったこともあった。

ごみ捨て場に入るときも、襲われてカメラを奪われるかもしれない、という不安がないといえ、うそになる。

そんなことを、女の子に話した。そして、「ここで働くのは大変だろう。もっと簡単にお金をもうけようとしている人たちもいるのに」と問いかけた。

彼女は働く手を止め、私の顔をのぞき込むようにして答えたのだ。

「悪いことは、だめ」

(フォトジャーナリスト)

悪いことで、お金もうけはしない